

## 細江カトリック教会だより

初夏（5，6月）号

〒750-0016 下関市細江町1-9-15

☎083-222-2294

☎083-222-0970

ホームページ <http://hosoechurch.sakura>



### イエスへの愛を育む

愛は人生という「紙」に書かれた詩にたとえられます。愛という文字はその紙全体に書くことができますが、その「紙」なしでは不可能です。私たち一人ひとりの人生こそがその紙です。それは人生の旅です。

さて、日常生活の中で、イエスへの愛をどのように書いているのでしょうか。イエスをもてなすために忙しく慌てながら料理を準備していたマルタのようでしょうか。あるいは主の足元に静かに座り、呑気そうに話を聴いていたマリアのようでしょうか（ルカ10、38-42参照）。

料理を忙しく作っていたマルタのように、私たちも人生という紙に沢山の計画、夢、野心を書き留めることがあるかもしれません。お金だけを求めることなく、神様に奉仕することや、困っている人々を助ける人となり、教会のために力を尽くして頑張ることなどなどがあります。「紙」の冒頭を振り返ると、「神のより大きな栄光のために」という言葉が書かれていることがわかります。そしてどうやら、大成功を収めたときのメモもたくさんあるようです。これらのメモを読むと、人生が美しいと思いました。しかし、論理的に結論付けるためには、「神のより大きな栄光のために」ではなく「私の栄光のために」という言葉を書くべきだと思います。マルタがキッチンでやったように、私たちもたくさんのかんことをしたかもしれません。しかし、おそらくそれは、マルタがイエスを自分の側に引



き寄せて「主よ、妹は私だけにおもてなしをさせていますが、何ともお思いになりませんか。手伝ってくれるようにおっしゃってください」（ルカ10、40）と圧力をかけたように、私たちがイエスを自分の奉仕や仕事などに引き込んで、強く、厳粛で、崇高な姿勢を作り出していたかも知れません。

あるいは、主の足元に静かに座り、呑気に話を聴き入っていたマリアのように、人生の紙に何かを書く時は、言葉と言葉との間、またラインとラインとの間に隙間が必要のように、心の隙間がなければなりません。言葉と言葉との間、ラインとラインとの間にスペースがなければ、それが何であるかをどうやって判断すればよいのでしょうか。真っ黒いものになるのではないのでしょうか。人生に沈黙がないとしたら、自分が何をし

ているのか、誰のためにしているのかをどうやって知ることができるのでしょうか。マリアの沈黙・静かさは、何もしていないわけでも、奉仕していないわけでもありません。マリアのように沈黙していることは、イエスと共に座ってイエスの言葉に耳を傾けること、私たちに對するイエスの夢を聞くこと、そして私たちが自分たちの人生という紙に書き留め、その上に書こうとしているすべての計画、夢、野心を振り返り、熟考するのを助けることです。

言葉とスペース・線と空間が調和した一枚の紙のように、私たちの人生はすべてが空白でもない、単に単語がつながっただけであることもできません。私たちは人生の紙に、イエ

スに熱心に食事を提供するマルタのように書く必要があります。同時に、マリアと同じように、私たちにも振り返る余地がなければなりません。空白・スペースは読者が単語とその意味を認識するのに役立つのです。同じように、沈黙は人生の意味を理解するのに役立ちます。

「主よ、あらゆる騒音に囲まれているとき、沈黙の時間を見つけるのを助けてください。数十万の仕事に引き裂かれる時、あなたの御前で休息の瞬間を大切にできますように。こだわりや心配事に悩まされているとき静かに足元に座って御言葉を聞く方法を教えてください。

淫らな情念に引っ張られる時、祈ることによってそこから逃げられますように。主よ、祈りの精神が私の生涯に浸透しますように。

祈りを通して、本当の私と神の本当の顔に出会えますように。アーメン。」

グエン・ヴァン・トアン神父

\*フェルメール作「マルタとマリアの家でのキリスト」

### 設営準備 4/23 (日) 乙女峠



\*トアン神父さま率いるベトナム青年たちとシニアの代表が、準備に参加。その後、現地でミサを。

### 乙女峠祭 5/3 (水) 津和野



風薫る5月・・・乙女峠で久しぶりに行列が行われました。

多国籍の方も多く参加されましたが、この坂道を前田枢機卿さま、白浜司教さまはじめ司祭の皆さまが静寂の中を登ってこられたお姿に、なぜか胸が熱くなりました。

この地で殉教された方々が辿ってこられた坂道・・・その思いを馳せていました。今、改めて彼らの素直な信仰を肌で感じ、切なくて辛くて祈るばかりでした。

閉祭時には山根神父さまから下関のベトナム青年たちの活躍に対して労いのお言葉をいただきました。

老齢化する私たちの教会ですが、いろいろな事をできる限り次の世代に受け継いでいくことができますようにと希望の光を願いながら・・・。



\*乙女峠ミサの後、広場で合流したベトナム青年チームと少しのお弁当やおにぎりを分かち合い。一緒に食卓?を囲むっていいね～。その後、青年たちは設営の片付けも。



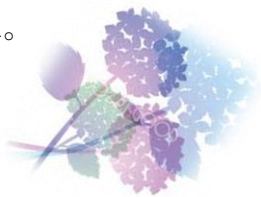
## 社会教説 6/4 (日)

講師：林尚志神父さま

テーマ：現代社会の中を教会暦はどの様に

いきるか？教会の暦を生きることと、今の社会でのミッションは？ 特にミサからの派遣は？

林神父様のいつもながらの元気な話しに、私も元気を頂きました。コロナ禍により、人と人との関係が希薄となり、かつてないほどの孤独を感じる。その時こそ、人の居場所があること、また大切にされる場所を持つことを考える人でありたいと思いました。また、違いは間違いではなく、対話する中で、人の自由を認めることが、愛の新しいよみがえりとなり、そして祈りをすることで、強められると思いました。社会的な活動は社会に対する愛であると、世界で切り捨てられている、入管難民法の問題、飢餓の問題、フードロス、その苦しみの原因となる社会の状況を変えるための行いは、すべての愛の業です(186) 日々の生活の中で、苦しむ人に寄り添えることが、一人では出来ないことは仲間で相談したり、愛をもって、祈りをして、私の出来ることを始めたいと思いました。



## 地区だより V

後田地区

いよいよ教会の解体、建替工事が目前に迫り、沢山の思い出が詰まった教会との別れへのさびしさが募る一方で、震度5の地震で2階部分が落ちてくるとの診断に、一刻も早く建替えを、という思いが交錯します。作道神父はじめ、関係者、建替え委員の方々には、何年も前から連日さまざまな交渉や議論を重ねられ、計り知れないご苦勞があると思えます。感謝しかありません。

長女と共に洗礼を受けたことはもちろん、彼女がまだ2歳くらいの時、祝賀会では歌や音楽に合わせてホールのステージ上で踊ったり、御ミサでは献金バスケットを持ち、お兄さんお姉さんたちに混ざって皆さまのもとに献金を集めに回っていたこと。その時の誇らしい顔は今も懐かしく思い出されます。長男、次男が生まれ、泣き部屋で過ごした時期。新生児から1, 2歳頃までは、授乳やおむつ交換もありますが、精神的なプレッシャーからわずかに解放され、御ミサに与る事から遠ざからずに済みました。そこでは同じように小さなお子様連れの他の信徒の方々はもちろん、耳に補聴器を入れたシスター、急にご体調を崩された方、最期の力を振り絞ってお越しになったご病気の信徒の方が横になって御ミサに与る姿があったりと、本当にさまざまな方と出会い、神様のお恵みを感じてきました。その度に、神様はみんなの近くにいるんだよ、と子供達にいつも伝えてきました。

神様に命をお借りし生かされている私達には、年齢を問わず確実に明日が来る保証はなく、それは神様のみご存知です。神様にすべてを委ね、神様に向かって歩む事が私達にできる最低限にして最大限のことなのだと思います。委ねることを忘れがちな私達は、いつも失敗し、悔い改め、そしてまた同じ失敗をする弱い生き物で、神様の救いによってまた明日を生きることができている事に気づかされます。神様のご計画のもと、何より信仰で結ばれた私たち兄弟姉妹が協働して建てるという事を忘れたくありませんし、その事に人種や貧富の差など関係なく、神様の子供として繋がる事が、より信仰を強めてくれると信じます。祈りとともに、前を向いた心で『神様に向かって』建てた教会はとても美しいことでしょう。細江教会の変遷を皆様と共に見届けられる事は本当に有難いことです。この細江教会聖堂の長い歴史の一部にいられたこと、これまでの素晴らしい経験に感謝し、この先へと続く新たな聖堂の完成を心待ちにいたします。

カスタニエーダ・靖代

## ロクスひよりやまからの便り

(旧下関労働教育センター)

昨年は下関労働教育センターが50周年を迎え、それに伴い、通称を変更することになりました。運営委員会の全会一致で決まった新しい名前は「ロクスひよりやま」です。子どもとみんな食堂を2年前に始めて、この名前が浸透してきたこともあります。出会いを生み出していく場(ラテン語で“ロクス”)というセンターの使命をよく表している名前のように思われるからです。子ども食堂を通して、下関の三教会とも連携を深めており、手伝ってくださる信者さんたちに心から感謝いたします。ときどき、こうして便りを書かせていただけたら幸いです。

一年前の復活祭の時に、細江教会でベトナムの青年たちと協力をして食糧配布をすることがありました。その後、キッチンカーで街に出向くときに、ベトナムの青年が手伝ってくれるようになりました。

細江教会の良いところは、他の地域、外国から来た人々を受け入れる温かみのあるところだと思います。

ベトナム人の司祭がいるおかげで、近隣からもたくさんのベトナムの青年たちが来ており、彼らの集まる場としても細江教会は大切な場になっています。教会が、外国から来て時に寂しい思いもしている彼らが集まれる場、良い意味でのたまりばとなることができるなら、それは、教皇フランシスコが言う、教会は現代社会における野戦病院となってください、という励ましに応えることでしょう。

さて、いよいよ細江教会の改築工事が本格的に始まるようとしています。計画を立て準備をされてきた委員の方々には本当にお疲れ様と言いたいです。今まで、信徒の方への報告を重ねながら、難しい状況の中で最善の方法を選んでこられたと思います。心も身体もクタクタになりながらこの計画を進めてきた委員の方々をみんなで支えていくことができたら

と思います。体を動かす奉仕もありますし、実際に中心で動いている方たちをいろんな仕方で励ましたり、労を労ったりすることもできますね。こういう難しい時には、分裂させる動きも働いたりしますから、みんなで作る教会、教皇フランシスコが励ましてくれる教会、貧しい人々、弱くされた人々と共に歩く教会を作るために、みんなが祈りながら、中心となって働かされている方々をサポートしていけたら素晴らしいですね。しんどい時間もあるかもしれませんが、みんなが優しい笑顔になれる教会がその先にきっとあります。

それでは、小教区、ロクスひよりやま、みんなで協力しながら、社会に平和を築いていきましょう。

ロクスひよりやまキャプテン  
中井 淳 神父



## 細江カトリックセンターにて

センターのベランダでは、トアン神父さまが種苗から育てた花々とミニとまとがスクスクと育って、その先にはパッションフルーツまで実をつけています。モッコウバラの下では日陰になって涼しい風が・・・お茶の用意もありますので、どうぞいらしてください。(メダカもいます)



帰天者

† 神のみもとへ 4月～6月

- ☆ 4/ 5 テレジア 小濱秀子さん
  - ☆ 4/13 ベルナデッタ 深堀一恵さん
  - ☆ 4/25 ヨハネ 杉山繁見さん
  - ☆ 5/ 8 ヨゼフ 坂本康則さん
  - ☆ 6/ 9 モニカ 岡藤幸恵さん
- … 永遠の安らぎをお与えください